

《無断転載を禁ずる》

2022年度 群馬県立女子大学文学部美学美術史学科  
一般選抜（前期）

出題意図

宇佐美英治「闇・金・灰——谷崎潤一郎の色調」（大岡信編『日本の色』朝日新聞社、1979年）を題材に、次のような出題を行いました。

問(1) 本学科に入学して学ぶために必要な基本的な語彙力があるかを問いました。

問(2) 傘と帽子が、屋内の明暗の程度と関わる屋根の張り出しの程度に注目した、日本の建物の屋根と西洋の建物の屋根とを対比させた喩えであることを理解できているかを問いました。

問(3) 日本人は旧来、室内が暗い家屋に住むことを余儀なくされてきた故に、陰翳の中でこそ認められる漆器の真の美しさを発見し得たという谷崎潤一郎の主張を理解できているかを問いました。

問(4) 谷崎潤一郎の指摘する「陰翳の美」について、生活の中にまだ残っていると考えるか、あるいは消えてしまっているかと考えるか、その根拠を明確にししながら、論理的に述べられるか、主張に一貫性があるか、文章表現および表記が適切か、以上を問いました。